

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援ぽっとまむ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 22日		2025年 10月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 22日		2025年 10月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業所向け自己評価表作成日	2026年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用されるお子様が楽しく安心して通所できる場となっていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子様との関係性の構築を図り、安心して過ごしてもらえるよう配慮している。 ・ お子様楽しく取り組めるようなプログラムを提供するため、支援後の振り返りを徹底し、一人ひとりの様子をしっかりと把握した上で、お子様に合わせた対応を職員全体で検討しながら提供している。 	職員向けの様々な研修を実施し、お子様との関係性を迅速に築けるようスキルアップに努める。
2	保護者様との情報共有や、情報の発信を丁寧に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳への記載の他に、支援後のお迎え時を活用し、保護者様と個別に話す時間を確保し、お子様を取り巻く様々な状況も含め、情報の共有に努めている。 また、メールや電話でいつでもお話ができる状態を作り、保護者様へのサポートにも努めている。 	保護者様向けの情報発信として、SNSの活用を充実させたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別対応が得意な職員は多いが、全体をまとめていける職員の育成が追い付いていない。	毎日コンスタントに出勤できる職員が少なく、出勤時間も短いため、スキル習得や育成に時間がかかってしまう。	現場を任せせる正規職員の採用や、児童発達独自の研修の実施を行っていく必要がある。
2	事業所主導による地域交流の場が持ちにくい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの職員が地域交流の経験がなく、場見知り人見知りなど、他者との関わりが苦手なお子様と地域とを、どのような形でつなげていったら良いのかを学ばなければならないと思う。 ・ 日々の業務に時間を取られ、新しい事に向けじっくり検討する時間の確保が難しい。 	他事業所から情報やアドバイスをもらったり、実際の取り組みを見学させてもらったりして、イメージをもった上で、自分達に何ができるかを検討していく。